公表日：２月25日㈭

茨城県の経済動向（茨城経済四期報 平成21年10月～12月期）

この茨城経済四期報は，茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し，これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変動をもとに，本県における最近の経済状況をマクロ的視点から，限られた統計データ分析範囲の中で，概観的にまとめたものです。

概　況

本県経済は，依然厳しい状況にあるが，一部に持ち直しの動きがみられる。

本県の最近の経済動向をみると，生産活動は持ち直しの動きが続いている。消費は一部に持ち直しの動きがみられる。住宅投資は低調であるが，公共投資は前年水準を上回る。民間設備投資は，21年度下期の設備投資計画額が減少見込みとなっている。雇用・労働は依然として厳しい状況にある。景気ウォッチャー調査による景況感は，家計動向関連DI，企業関連DI，雇用関連DIがいずれも横ばいを表す50を下回っており，引き続き下降局面にある。景気動向指数（CI）一致指数の後方移動平均は，上昇している。県民経済計算四半期速報による県内総生産の実質経済成長率（７－９月期）は，６期連続のマイナスとなっている。

景　況　等

・景気ウォッチャー調査12月実施による現状判断DIは，前期（９月調査）比4.8ポイント低下の33.0となり，横ばいを表す50を10期連続で下回り，引き続き景気は下降局面にある。業種別にみると，家計動向関連DIは10期連続，企業動向関連DIは11期連続，雇用関連DIは９期連続といずれも横ばいを表す50を下回った。

・景気動向指数（CI：平成17年＝100）12月の一致指数は85.1で前月比＋9.2％と２か月連続で上昇し，３か月後方移動平均は６か月連続の上昇となっている。

〈※国の景気動向指数（CI）12月の一致指数は97.4となり，前月比＋1.5％と９か月連続で上昇している。〉

・県民経済計算四半期速報（平成21年７～９月期）の県内総生産（支出側）実質経済成長率は，前期比－1.2％（年率換算－4.6％）となり，６期連続のマイナスとなっている。

〈※国の実質経済成長率（平成21年７～9月期）は，前期比＋0.3％と２期連続のプラスとなっている。〉

生 産 活 動……持ち直しの動きが続く

・鉱工業生産指数（平成17年＝100）12月は89.6（季調済）で前月比＋4.2％と２か月連続で上昇したが，前年同月比（原指数）では－1.7％となり，22か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると10～12月期は，前期比（季調済）で＋6.6％と，２期連続で上回った。

〈※全国の鉱工業生産指数12月は89.7（季調済）で前月比＋1.9％と10か月連続で上昇した。原指数では前年同月比＋5.1％となっている。四半期ベースでは前期比（季調済）＋4.6％と３期連続で上回った。〉

・大口電力使用量12月は，前年同月比＋3.9％と14か月ぶりに前年水準を上回った。四半期ベース10～12月期では前年同期比－7.3％となり，５期連続で前年水準を下回った。

消　　費……一部に持ち直しの動き

・大型小売店販売額12月は，前年同月比－0.7％と３か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると10～12月期は，前年同期比－2.1％と５期連続で前年水準を下回った。既存店ベースで見ると，百貨店販売額12月は前年同月比－5.1％と14か月連続で前年水準を下回り，スーパー販売額12月も前年同月比－6.2％と17か月連続で前年水準を下回った。既存店の大型小売店販売額12月は，前年同月比－6.0％と21か月連続で前年水準を下回った。
〈※全国の大型小売店販売額12月は，前年同月比－4.1％と17か月連続で前年水準を下回った。〉

・自動車新規登録台数12月は10,111台で，前年同月比＋24.3％と４か月連続で前年水準を上回った。貨物車・特殊車を除いた乗用車を前年同月比で見ると，軽乗用車は－3.1％，小型乗用車（2000cc以下）は＋42.8％，普通乗用車（2000cc超）は＋60.0％となった。四半期ベースで見ると10～12月期は，前年同期比＋20.0％と６期ぶりに前年水準を上回った。

・二人以上世帯の勤労者世帯消費支出12月（水戸市）は，前年同月比＋20.0％と５か月連続で前年水準を上回った。
〈※全国の勤労者消費支出12月は，前年同月比－1.7％と７か月連続で前年水準を下回った。〉

民間設備投資……21年度下期の設備投資計画額は減少見込み

・法人企業景気予測調査10～12月期調査では，21年度下期の設備投資計画額は，全産業で前年同期比－37.5％の減少見込みとなっている。21年度通期は，全産業で前年比－35.4％の減少見込みとなっている。

建 設 投 資……住宅投資は低調，公共投資は前年水準を上回る

・新設住宅着工戸数12月は1,623戸・前年同月比－19.1％と12か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると10～12月期は，前年同期比－13.9％と５期連続で前年水準を下回った。
〈※全国の新設住宅着工戸数12月は，前年同月比－15.7％と13か月連続で前年度水準を下回った。〉

・公共投資の動向を公共工事請負額からみると，12月は前年同月比＋25.5％と２か月ぶりに前年水準を上回った。四半期ベースで見ると10～12月期は，前年同期比＋12.8％と４期連続で前年水準を上回った。

雇用・労働……雇用情勢は依然として厳しい

・新規求人数12月は，前年同月比－19.3％と29か月連続で減少し，新規求職者数12月は前年同月比＋2.0％と14か月連続の増加となっている。新規求人倍率（原数値）は0.85倍と12か月連続１倍割れで推移している。

・雇用保険受給者実人員12月は，前年同月比＋50.5％と13か月連続増加となっている。

・常用労働者の現金給与総額（事業所規模30人以上）11月は，対前年同月比＋0.7％と12か月ぶりに前年水準を上回った。きまって支給する給与（事業所規模30人以上）は，対前年同月比－0.9％と11か月連続で前年水準を下回った。

（注）本調査の結果報告書（全文）は「いばらき統計情報ネットワーク」に掲載しておりますので，ご参照ください（PDF形式）。
URL：http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/keizai/09_10-12/index.html